

### 国際財政カンファレンス「地方財政の過去・現在・未来」

#### 社会科学研究所

社会科学研究所は、国際財政カンファレンス「地方財政の過去・現在・未来」を7月6、7の両日、サテライトキャンパスで開催し、日中の研究者による学術的交流を通じて、地方財政から日中の財政制度のあり方を検討した。



▲2日間にわたり活発な討議が行われた

## 日・中16人の研究者が討議

このカンファレンスは、地方財政のキーワードとなる、地方税・一般補助金・公的扶助・地方債・特定補助金・地方独自課税などを論題に、それぞれ50分間の研究報告と討論で構成。日本側は金子勝慶應義塾大学教授、中国側は上海财经大学公共経済与管理学院の6人の研究者の合計16人が出席。2日間をわたって活発な討議が行われた。

授はじめ、本学を含む6大学から10人の研究者が、中国側は上海财经大学公共経済与管理学院の6人の研究者の合計16人が出席。2日間をわたって活発な討議が行われた。

初日、宮崎晃臣事務局長(経済学部教授)の開会あいさつ後、原田博夫大学院経済学研究科長(経済学部教授)が「日本と中国は東アジアの国として同じ文化と社会構造をもつ。そうした意味で日本と中国の地方財政を比較することはたいへん有意義なこと」と語り、中国の研究者に対し歓迎の言葉を述べた。

増税と税収配分の関係に触れ「国から地方への税源移譲が、今後の地方財政の力ギとなる」と語った。

蔣洪教授は、地方と中央の財政制度における権限構造や問題点を概説し「中国の地方政府は立法権も徴収権もなく権限を中央に委ねざるを得ない状況にある。予算の適正な執行と情報公開を求めて改革を進めるべきだ」と語った。

社会科学研究所は今回のカンファレンスで、中国の地方財政制度の現状と日本

## 「ファッションを仕事にする」60人が聴講

女性が社会で活躍する力を養うHEIB講座が生田キャンパスで開講中だ。

7月10日に行われた前期第8回講座では、元トウモロランド人材開発室長の信川幸代さんが「ファッションを仕事にするということ」をテーマに講義を行い、約60人が聴講した。

### HEIB講座

トウモロランドに18年間在籍した信川さんにとって「ファッションを仕事にする」ということは自分を磨き続けることだ。

「そのために365日五感を鍛え、自分が『好きだ』と言えるものを持つことが大切」と説く。

講義では実際に「私にとっての大切なこと」「私にとって達成したい結果」「10年後に在りたい



▲講演する信川さん

久保由香里さん(商業問題に関する多彩な講義、企業訪問やビジネスマナーなどのユニークな講座を開講し、実社会で役立つ実務能力と、女性として必要な資質を磨くことを目的としている。詳細はエクステンションセンターへ。

私の姿」を書き出し、参加者同士でディスカッションするワークも行われた。

また「第一印象はコミュニケーションの第一」と「就活」を控えた学生たちを激励した。

※HEIB(ヒープ)講座「女子学生限定の講座で、企業や各界で活躍する人を招いて、マーケティング、日本経済、国際経済、消費・流通、環境問題に関する多彩な講義、企業訪問やビジネスマナーなどのユニークな講座を開講し、実社会で役立つ実務能力と、女性として必要な資質を磨くことを目的としている。詳細はエクステンションセンターへ。

#### 出席者(敬称略)

- 7月6日
- ▽司会・金子勝(慶應義塾大学)
- ▽報告者 朱為群(上海财经大学公共経済与管理学院)
- ▽討論者 宮崎晃臣(立教大学)、池上岳彦(同)、田中聡一郎(同)
- 7月7日
- ▽司会・宮崎晃臣(報告者)
- 陶勇、胡怡建、朱為群(以上、上海财经大学公共経済与管理学院)
- ▽討論者 井手英策(慶應義塾大学)、沼尾波子(日本大学)、青木宗明(神奈川大学)
- ▽総括 日本側・金子勝、中国側・朱為群
- ▽通訳・徐一睿(慶應義塾大学)、宋宇(横浜国立大学)、張穎

## KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミー

### 第2回特別講演



## アカデミー修了生らが体験発表

KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーと川崎市主催「誰にでもわかるソーシャル・ビジネス」の第2回特別講演が6月30日、本学サテライトキャンパスで開催された。

第1部は「ソーシャル・ビジネスが社会を変えよう」をテーマに、鹿任倫世商学部教授が講演。高まるソーシャル・ビジネス(「社会的な課題を、ビジネスの手法を取り入れて解決すること」)の必要性や課題を解説した。

鹿任教授は「事業を継続させるためには、適正な対価を得て収益を確保することが重要。そのた

な対価を得て収益を確保することが重要。そのた

な対価を得て収益を確保することが重要。そのた

### 「社会貢献」テーマに公開講座

#### 環境、CSR、イクメン支援など

7月28日、第1回「2人」のトップランナーから昌弘氏(報徳報徳堂広報室のメッセージ)が生田キャンパスCSRグループ部長と安藤哲也氏(NPO法人環境コム)が講師を務めた。

環境コムは、主体的に子育てをする父親が増えれば企業の意識も変わり、子育てしやすい社会につながる」と語った。

第2回は9月2日にサテライトキャンパスで



▶講演する川廷氏

環境コムは、主体的に子育てをする父親が増えれば企業の意識も変わり、子育てしやすい社会につながる」と語った。

第2回は9月2日にサテライトキャンパスで

#### 受講生を募集

川崎市と専修大学が共同で開催し、ソーシャル・ビジネスの人材を育てる「KSソーシャル・ビジネス・アカデミー」(川崎市・専修大学共同市民ビジネス人材育成事業、専修大学大学院経済学研究科特別教育プログラム)が10月から始まり、受講生を募集する。

◇期間 2012年10月2日(火)～13年2月9日(土)

◇募集人員 受講生30人、部分履修生5人

◇学費 受講生5万円、部分履修生(1科目)1万円

◇教室 専修大学サテラ

イトキャンパス(向ヶ丘遊園北口駅前アトラスタワー2階)

◇申し込み期間 9月3日(月)～9月12日(水)

【必着】

◇選考 書類審査(1次)・面接(2次)

◇募集説明会 8月20日(月)19時、川崎市産業振興会館 同27日(月)19時

44(922) 9384

丸・ストーリーテリング研究所(研究員)と平成23年度KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミー修了生の田村武晴さん(報徳報徳堂CSR代表取締役)が、それぞれ事業事例を発表した。

講演終了後には副アカデミー長の神原理商学部教授が、50人の参加者に向けて平成24年度の講座やアカデミーの特色を紹介した。

「CSRも生物多様性も日本人の暮らしの営みそのもの。地域の文化を見直し、現代の伝承者」となって、子どもたちに地球を還していくことが私たちの役目。CSRを「自分ごと」としてアクションを起こしていきましょう」と語った。

イクメンプログラムの立役者である安藤哲也氏は、NPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げ、父親の子育て支援事業を展開するほか、父子家庭支援や男性の育児取得推進など政策提言としての活動を行っている。

安藤氏は、「主体的に子育てをする父親が増えれば企業の意識も変わり、子育てしやすい社会につながる」と語った。

第2回は9月2日にサテライトキャンパスで

「支援とは何か」大学、NPO法人が取り組む社会貢献」をテーマに開かれる。